

見たら絶対ほしくなる！

旬なアーティストが
ずらり！

ビギナーだって
大丈夫！

10万円で アートを買おう！

- 推薦者・W じんわり系が好きな40歳代男性
- 推薦者・S 工芸から現代まで守備範囲の広い40歳代男性
- 推薦者・N アジアの美術市場に精通する40歳代男性
- 推薦者・T 本とアートが大好き20歳代女性
- 推薦者・I 新人作家の応援団長20歳代男性

美術品コレクションの楽しさをひとりでも多くの人に体験して欲しい。
そんな願いをこめて編集部員イチオシのアート作品を誌上販売します。
良質な作品に触れ、そこに込められた作家の思いに共感したときが
作品購入の最良のタイミングです。

紹介するのは将来性ある20歳〜30歳代の作家の
新作・近作で10万円台が中心。
お手頃価格とはいえ、コレクションに最適の評価の高い作品ばかり。

購入いただいた作品には
作家から購入者に宛てたお手紙を添えてお届けします。

ビギナーには人生はじめての一点を、
常連にはコレクションに新たなページを。
是非この機会をお見逃しなく！

申し込んだ作品は、各作家の
グリーティングレター（御礼状）とともに
お届けします。お楽しみに。

※掲載作品はすべて購入いただけます。価格は消費税込です。
67ページの申込要項を参照のうえお申込みください。

普遍的な女性美が 国内外で人気 顧洛水

現在周りの友人をモデルとして、作品を制作していますが、作品中の人物や背景などはほとんど想像によるものです。(顧)



こ・らくすい
1986年中国洛陽生まれ。2016年京都造形芸術大学大学院博士課程修了。15、16年個展(神戸・川田画廊)。現在、京都造形芸術大学通信教育部水墨研究室非常勤講師。
▶8月25日(金)～9月9日(土)、銀座・REIJINSHA GALLERY「60の顔(前編)」出品



00 《When I think about you》64,800円(額なし)
2017年制作 33.3×24.2cm (4F) 高知麻紙、岩絵具、墨、鹿膠、顔彩

写実的な顔、体の形から脱出し、自身の情念や熱意を作品に入れ込み、観る人の心を揺り動かす作品をつくることを志しています。(顧)



00 《夢・蝶III》64,800円(額なし)
2017年制作 33.3×24.2cm (4F) 高知麻紙、岩絵具、墨、鹿膠、金泥、顔彩

話題の書籍『美人画づくし』の出版を記念した今年5月のグループ展(丸善日本橋店)でも大人気。また4月のヤングアート台北(台北・シェルトンホテル)でも話題を呼んだ美人画の新鋭。ともすれば重くなり、ちな人間の情念や苦悩を、涼やかに、しかし深みある表現で描く。様式化されない普遍的な女性美を追求する、ぶれない姿勢にさらなる飛躍の期待大。
(推薦者・I)

潮田和也

人気急上昇！ 命宿る女性像



00 《小春》226,800円(額付)
2017年制作 41×31.8cm (6F) 油彩、練り込みOGテンペラ

「清潔感」と「清らかさ」をテーマに、普遍的な美しさをもつ少女像を目指しました。油彩とテンペラの併用で可能になった透けるような肌の質感は、流行のエアスプレーでは出せない、手わざならではのものだと思います。図像の美しさにくわえ、油絵本来の瑞々しい魅力も感じていただければ嬉しいです。(潮田)



1983年栃木県生まれ。2013年第1回ホキ美術館大賞展入選(同16年第2回)。14年第5回牛久比エンナーレ入選。15年文星芸術大学大学院博士後期課程油修了(博士号取得)。16年美術新人賞デビュー入選(同17年)。
▶7月11日(火)～17日(月)、そごう大宮店美術画廊にて個展

わずかDM1枚の持ち込みから、宇都宮の老舗・西邑画廊での個展を実現させた写真期待の若手。今年3月の同展はほぼ完売の盛況ぶり。まさに飛ぶ鳥を落とす勢いで人気と評価を高める。
ともすれば男性目線になりがちな写実の女性像にあって、「老若男女

を問わず、万人に美しいと感じてもらえる絵を描きたい」と語る画家。それが一番險しい道のようにも思うが、瑞々しくモデルを捉える視点と、微妙な陰影や空気感までも描き出す技術は説得力十分。テンペラの研究で博士号を取得している秀才でもある。
(推薦者・I)

未来を買おう！

最新世代のアート

若さと新しい感覚を武器に、
20 歳代でブレイクを果たした
新世代の才能たち。
これから画家としてのキャリア
を積んでいく彼らの、夢の
詰まった作品を是非手元に。

特集
10万円でアートを買おう

川島優

闇の黒から光の白へ 若手実力派の最新の一点



01 《Recipient epsilon ver.》 86,400円（額付）

2017年制作 17.9×13.9cm (0F) パネルに麻紙、墨、岩絵具、箔

《Recipient》は、日本語で受容者を意味する用語。何かの出来事に立ち合い、影響を受ける事で、変化していく人間存在を絵画表現することを試みています。今作品に限った話ではありませんが、ここ2年間の創作からエネルギーのアルゴリズムを強く感じるようになりました。又、情報過多な現代社会を生きる事で、日々変化していく我々には、自己を保ちつつも、自己を更新し続けるといった生きようとする意志があると考えます。そのような、今日の変化生成をより現実的な出来事であり、痕跡として絵画に託すべく、この Recipient シリーズを描いています。（川島）

かわしま・ゆう

1988年静岡県生まれ。2012年再興97回院展初入選。14年損保ジャパンFACE展2014グランプリ。第6回トリエンナーレ豊橋星野真吾賞展優秀賞。再興第99回院展奨励賞。15年愛知県立芸術大学修了制作展優秀作品賞。日本美術院院友。

▶11月、Whitestone gallery 香港にて個展予定

モノトーンの無機質な空間に現代女性を描き、日本画とは思えないシャープな世界を構築。2014年FACE展グランプリ受賞以降、数々の賞に輝いた人気と実力を兼ねる一人だ。以前は無感動や無反応といった現代人のマイナス面を想起させたが、近年のシリーズでは無機質な環境に生きる現代人の幸福が象徴的に表される。白を基調とした新作には、現代社会の黒い闇を見据えることで未来の光へと転化した希望の輝きが込められている。（推薦者・N）

描いたのは鯨の幼魚です。食欲旺盛な彼らは、常に動き回り、餌のメダカを食べることしか頭にありません。（阿部）

「自身の飼育している魚たちをモチーフに、現代における人と生物との距離感、生命の美しさや不気味さを抽出できれば」と本人はいつだって真面目だが、美しさや不気味さよりも、むしろ絵から伝わる「飄々とした」感じに惹かれている。応挙、芦雪

神坂雪佳あたりは生きていれば捨ておかないのではないか。
「日本画のアクアリウム」とでも形容したくなる絵には、小さくても、無限を感じさせる「宇宙」がある。

（推薦者・W）



02 《メダカ捕食図》 135,000円（額付）

2016年制作 33.3×45.5cm (8P) 紙本彩色

昔の中国絵画に、花鳥と並ぶ自然観照の画題「魚藻」があります。魚と藻だけで、十分鑑賞に堪える作品ができると思い制作した一枚です。魚はアフリカの古代魚、ポリプテレス・セネガルスです。（阿部）



03 《魚藻図》 110,000円（額付）

2017年制作 31.8×41cm (6F) 絹本彩色

阿部観水

飄々とスイスイと…
日本画のアクアリウム



あべ・かんすい

1988年神奈川県出身。2012年武蔵野美術大学日本画学科卒業。個展（コート・ギャラリー国立、アトスペース羅針盤、ガレリア青猫）。グループ展（靖山画廊、成城さくらさくギャラリー、ギャラリー和田）。

▶7月10日（月）～15日（土）、京橋・アトスペース羅針盤にて「阿部観水・松岡学 二人展」

遠藤美香

FACE展2016

グランプリ作品

再び登場！

最初から最後まで迷うことなく完成させた作品です。出来上がりも満足しています。(遠藤)



26 《芝生》
64,800円 (シートのみ)

2013年制作 91×128cm (画面寸法)、105×128cm (紙寸法) 和紙、墨、木版



27 《水仙》162,000円 (シートのみ)

2015年制作 182×91.5cm (画面寸法)、190×100cm (紙寸法) 和紙、墨、木版

FACE 展の授賞式の帰り道、「賞をとった人ですね」と私を呼んだ女の子は、自分は私鉄で帰るそうだが、わざわざJRの駅まで送ってくれた。《水仙》は、授賞式の夜とその女の子を私に思い起こさせます。(遠藤)



えんどう・みか
1984年静岡県生まれ。2007年日本大学芸術学部卒業。09年愛知県立芸術大学大学院修了。14年鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展大賞、15年FACE展2016グランプリなど受賞多数。
▶2018年1月11日(木)～2月3日(土)、銀座・ギャラリーなつかにて個展

鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞、FACE展グランプリなど受賞を重ね、いま最も注目を集める遠藤美香さん。目を見張る細かな技術と大胆な構図は、何度見ても圧巻。「単純明快」な技法に惹かれ選択したという木版画は、一貫して墨一色「多色摺りは、細かな采配が必要になり、性分に合わない」と語る。遠藤さんの作品には、揺るぎない制作への信念が宿っている。来年1月には新作を中心とした個展を開催予定。突き進んで行ってほしい！

(推薦者・T)

山田彩加

命の繋がりに肉薄する

高密度絵画

沖縄県にある渡具地海岸は、昔からの面影が残る豊かな自然と共に、ターコイズブルーの美しい海が広がっています。沖縄の海岸風景・磯の香り・細波の音は、遠い故郷の瀬戸内海を想起させ、清純で広大な海を見ていると、生命の起源を連想すると共に、過去から未来を通じてこの世で生じる全ての事が、海へ浸透して消えていくように感じられます。(山田)



24 《弧月への誘い》120,000円 (額付)

2016年制作 98×78.5cm リトグラフ ed.30

大木を伴った島が海の真中に浮かぶシーンをイメージし、月・ガジュマル・珊瑚礁・女性像・(始まりを表す)本・植物等をモチーフに用いました。生と死を通じて、個体は万物と連帯します。その反面、強い孤独感を孕んでいると感じられます。寂しげに浮かぶ月が、現世との別れ(孤独感)を象徴化するようです。(山田)



やまだ・あやか
東京藝大大学院博士課程。2011～12年パリ国立美術学校交換留学。15年南島原市セミナリヨ現代版画展《渡辺千尋賞(準大賞)》、個展「山田彩加-命の繋がり」(今治市玉川近代美術館)。
▶7月15日(土)～30日(日)、京都・アートゾーン神楽岡にて個展

(推薦者・N)

樹木や虫、鳥といったモチーフを高密度に凝縮した版画で、生と死を繰り返して過去と未来を通じて生じる「命の繋がり」を一貫して表現。画廊街での人気に留まらず、昨年は愛媛県今治市の玉川近代美術館で、企画展「山田彩加-命の繋がり」を開催し、さらに評価を高めた。現実の風景から時空を超えたイメージへと飛翔する、これほどスケールの大きく深い作品はほかにない。



25 《奇跡の海 - dessin II》47,000円 (額付)

2015年制作 40×29cm リトグラフ ed.20

永島信也

美術史的観点からも注目！
「根付」新世紀の申し子

「根付」といえば緻密な彫刻の多い中で、このシリーズではあえて木彫ならではの彫りの勢いと荒々しさを活かしています。その中で、特に顔をしっかりと彫り込むことで、自分らしさと新しさを意識した作品となりました。(永島)



紐穴は背面に

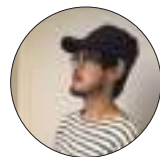


75 《粗御魂 (アラミタマ) ~玲~》 216,000円 (桐箱付)
2017年制作 3.8×3.1×高さ5.7cm 洋黄楊、鼈甲、岩絵具

幻獣と言っても様々な表現がありますが、その中で自分らしさを出せるように考えています。古来からの王道的なデザインの中に現代のゲームのモンスターなどの要素をうまく取り入れられるように意識しています。(永島)



たてがみの彫りの細かさにも注目



ながしま・しんや
1986年島根県生まれ。2010年京都造形芸術大学卒業。10～17年Gallery花影抄(東京/根津)で毎年個展を開催。14年「美少女の美術史」(青森県立美術館ほか)、2016年「再発見!ニッポンの立体」(群馬県立館林美術館ほか)に出品。16年BSフジ「ブレイク前夜」出演。
▶7月30日(日)、幕張メッセ・「ワンダーフェスティバル2017」出品

ユニークかつ精緻な極小彫刻として世界的に人気の「根付」。その活況を受け、多くの若手作家が新感覚の作品制作に取り組みようになった。昨今、中でも象徴的な存在として人気を博すのが永島信也だ。アニメやゲーム、フィギュアなどのエッセンスを色濃く反映したその作品は、ある意味で「根付」本来の魅力である鋭敏な時代感覚や枠にとられない遊び心を現代的にアップデートしたもの。最近では「美少女の美術史」、「再発見!ニッポンの立体」などの美術館企画で過去のマスターピースとともに紹介されるなど、美術史的な観点からも注目が集まっている。

(推薦者・S)
撮影…安達康介

76 《唐獅子》 162,000円 (桐箱付)
2017年制作 5.4×2.9×高さ2.5cm イスの木、ペーパー

藤田有紀

金工の魅力は「超絶技巧」だけじゃない
いざ、ワクワクとドキドキの冒険世界へ!!

昔大切にしていたうさぎの人形がいつか友達になって助けてくれる——心の中に思い描いていたそんな憧れのヒーローを、「ウサギマン」というキャラクターとして制作しています。子どもの頃は、誰にもそういう憧れのヒーローがいたと思います。そんな気持ちを思い出す存在になれるように。(藤田)



刀は持ちかえられます



73 《HEROES-武将ウサギマン-》 118,800円 (紙箱付)
2017年制作 18×14×高さ22cm 銅、真鍮

空で暮らして飛んでいるうちに、いつしか空の色が体に染みついてしまった小さなドラゴンです。こだわりのきらきらおめめポイントです。(藤田)



74 《空色ドラゴン》 86,400円 (紙箱付)
2017年制作 14×16×高さ15cm 銅、真鍮



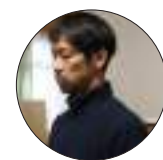
ふじた・ゆうき
1986年愛知県生まれ。2013年金沢美術工芸大学工芸科修士課程修了。16年金沢卯辰山山工芸工房修了。12年GEISAI#17審査員賞(富野由悠季賞)、13年世界工芸コンペティション・金沢審査員特別賞ほか、受賞多数。14年以降毎年あへのハルカス近鉄本店にて個展開催、ほかグループ展、アートフェア出品多数。
▶8月22日(火)～9月17日(日)、金沢・山ノ上ギャラリーにて個展

2月号特集『超・立体アート』としての最新工芸」を進行する中で、工芸評論家の外館和子氏が「金工ならこの作家も注目です」と挙げていたのが藤田有紀。鍛金技法で生み出されるキュート&ファンタジックで、どこか懐かしいキャラクターたち。彼らを見てみると、ついつい子どもの頃のように、浪漫冒険活劇を空想せずにはいられない。そんな藤田作品は、個展やフェアで常に赤丸ラッシュ。「明治金工系の超絶技巧だけではない、おおかで夢のある表現も大事です」と話す外館氏と同様に、多くのコレクターもまたそのワクワク、ドキドキに魅せられているのです。

(推薦者・S)

濱 圭

重厚かつ濃密
存在の神秘に触れる



はま・けい
1984年春陽展初出品。90年創形美術
学校卒業。2001年春陽会会員推挙。
02年春陽展安田火災美術財団奨励賞。
03年春陽展中川一政賞。

はじめ個展会場で作品に接した
ときには、鉛筆か木炭で描いたものか
と思った。それがキャンパスに油彩
で描かれていると聞き、限られた色
彩によってモチーフの実像を描き出
そうという画家の強い意思を感じた。

大きさに言えば、自然を掴みたい、
存在の神秘に肉薄したいという思い。
濃密な時間の流れる作品との出会い
に素直に喜んだ。重厚な絵画世界に
魅かれる人に、この作品を薦めたい。
(推薦者・N)

撮影：安達康介



69 《Charcoal》167,400円（額付）
2016年制作 40.9×31.8cm（6F）キャンバス・油彩

卓上や箱の中に木炭、より正確
には炭化した果物などを配置し
て、極力コントラストを抑えて非
常に細い筆で線を重ねて描いた
のがこの2作品です。世阿弥の
能が最小限の所作で最大限の
動作を表すように、画中の物で
宇宙の広がりや魅せられないか。
それには言語や知覚に頼らず自
分の本能を意識して、自然界が
発する声や波長を聞き取ること。
画中の物との対話をつうじて、
宇宙の広がりまで感じて頂けた
ら嬉しいです。（濱）



70 《暗箱》100,440円（額付）
2016年制作 22×27.3cm（3F）キャンバス・油彩

ホテルのロビーで才能発掘！ 公募「日本の絵画」入賞・入選者展



今年1月～4月に開催された公募「日本の絵画」
入賞・入選者展
(ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル・ロビー)



100号までの大作がズラリ



次世代作家のため値段は低め。

公募「日本の絵画」入賞・入選者展について問合
せは永井画廊 (<http://www.nagai-garou.com/>) まで。
現在同ホテルでは1、2、30階にて「高田保雄のヨ
コハマ」展開催中（～7月31日）

PART.5

ビギナーに最適！
アートが買えるお手軽スポット

横浜の有名ホテル、ヨコハマグラン
ドインターコンチネンタルホテルのロ
ビーを今年1月20日、50号から
100号の大作絵画55点が埋め尽く
した。野心的な写真系系の洋画や迫
真の人物画、伝統的な日本画などさ
まざま。実はこれ、銀座の永井画廊
が主催する公募「日本の絵画」の
371点の応募作品から厳選された
受賞作品展。

コンクリートの受賞作品展という
美術館や画廊で開催されることが一

般的だが、ホテルという不特定の人
たちが往来する開かれた場所での展
示は大きな反響をもたらした。国際
会議場が隣接するホテルだけあって、
海外の要人、ビジネスマンなどが絶
えず往き来し、ふらりと立ち寄って
作品に目を留めていくこともしばし
ば。好評をうけ2月までの会期を4
月まで延長し点数を絞り、2階レス
トランと30階のスペースにも展示した。
受賞作品は会場でも販売。すると才
能への共感と応援する熱意、そして

大作でも10万円台から30万円までの
買いやすい価格帯だったことで複数
の商談が成立。主催者の永井龍之介
氏（永井画廊代表）は、「医療系学会
の出席者など、普段アートと接点の
ない方たちが購入者。このホテルだ
からこそアートと出会うチャンスが
作れた」と喜ぶ。
アートフェアとは別の形で、出会
いの場としてのホテルの可能性を
アートに開いた画期的な受賞者展。
来年の次回展も期待される。